

『会報』第 11 号 2 報の発刊にあたって

日本医療秘書実務学会 会長 田中 伸代
(川崎医療福祉大学)



新年度になり、早くも 1 カ月がたとうとしております。会員の皆様にはいかがお過ごしでしょうか。

東日本大震災からもう 10 年経ち、一昔前のことと振り返っておりましたが、先日、東北地方で大きな地震がありました。被害に遭われた皆様に心よりお見舞い申し上げます。常に備えをしなければと、改めて認識いたしました。

さて、この 1 年は感染症対策に追われていましたが、この状況は、まだ今年度も続くようです。医療現場では、さらに医療安全の意識を高く持ち、迅速に対応できることが事務系職員にも求められるようになっていきます。多職種連携・地域連携のできるコミュニケーション能力や段取りの力も必要です。教育現場では、オンライン授業・ハイブリッド形式の授業、代替実習など、教育の方法や教材の改善を続けてきましたが、次の段階に進まなければなりません。また、医療現場での DX に対応できる人材の教育も行わなければなりません。卒前教育から卒後教育まで、従来のものを見直して、新しいシステムの構築をすべき時です。

2021 年の全国大会は、浜松医科大学医学部附属病院の小林利彦先生に大会運営委員長をお願いし、鋭意準備を進めております。昨年に引き続き、オンラインで開催いたします。オンラインだからこそ、距離と時間を超えて、より多くの皆様に届けられるものがあると考えております。昨年の研究発表では、その時に行われている進行中の実践の報告が行われました。組織や地域の特徴、環境などにより、様々な取り組みがあります。医療現場と教育現場との議論・対話ができることが本学会の特徴でもありますし、それがより良い将来につながっていきます。ぜひご発表・ご参加・ご討議いただき、また、その論文化を行って、共通の知的資産としていただきたいと思います。皆様のご参加をお待ちしております。

目次

- 1p・・・『会報』第 11 号 2 報の発刊にあたって
- 2p・・・寄稿～新型コロナウイルス感染流行による変化と進化～
- 3p・・・第 12 回全国大会のご案内
- 4～5p・・・会員のご紹介
- 5p・・・学会員を募集しています
- 6p・・・2020 年度 各種委員会の活動報告とお知らせ
- 8p・・・事務局からのお知らせ・編集後記

第 12 回全国大会

開催日

2021 年 8 月 29 日 (日)

開催地

オンライン開催

新型コロナウイルス感染流行による変化と進化

2019年に中国武漢市で発生した新型コロナウイルス感染症は、日本国内で2020年1月に初の感染者が確認されました。4月の緊急事態宣言以降、私たちの生活様式は一変し、当院においても多くの変化がありました。

まず、環境の変化です。当院も例にもれずマスクや手指用アルコール消毒、医療用ガウンやゴーグルといった感染防止用の医療物資不足となりました。常時着用する不織布マスクは、最も不足していた時期においては、各部署のストックも一旦は回収され、週に一人一枚の支給となりました。一方で院内環境の整備は一気に進みました。病院玄関にはマスクをしたまま体温測定可能な検温検知システムを設置し、午前中は看護師2名および事務職1名が立ち、来院者の検温や手指消毒の徹底、発熱者への対応をしています。院内の各所には飛沫防止のパーテーションを設置し、待合の椅子や窓口へ並ぶ際のディスタンスを保つようわかりやすく表示しています。また、院内での密を避けるために自動再来受付機での受付開始時間が、予約時間の1時間前からへ変更になりました。面会制限も継続されており、患者様やお付添いの方にはご理解とご協力をいただいております。

次に医師事務作業補助者の業務にも変化がありました。2020年2月28日厚生労働省保険局医療課から「新型コロナウイルス感染症患者の増加に際しての電話や情報通信機器を用いた診療や処方箋の取扱いについて」の事務連絡を受け、慢性疾患を有する定期受診患者様に対し、電話による診療および処方を開始しました。医師事務作業補助者は、医師と外来看護師および医事との連携役として、これをサポートしました。2020年2月から2021年2月診療分で700件実施しました。2020年4月の157件が最多で、診療科別では多い順に精神科221件（全体の32%）、脳神経内科82件（同12%）、皮膚科66件（同9%）です。12月15日「新型コロナウイルス感染症に係る診療報酬上の臨時的な取扱いについて（その31）」の小児の外来診療等において特に必要な感染予防策を講じた上で診療等を実施した場合の加算の算定についても、医師事務作業補助者が急な運用開始に対応しています。電子カルテシステムなどの改良には時間がかかりますが、専門職が集合している医療機関において、隙間を埋める職種である医師事務作業補助者が迅速かつ柔軟に対応できたことで、業務が円滑に遂行されています。新型コロナウイルス感染拡大のなかの病院運営にも非常に重要な役割を担っていることが証明されたと思います。

そのほか、学会や研修会、ミーティングなど顔を突き合わせてのコミュニケーションは、換気とパーテーションのなされたごく少人数の会に縮小されたり、web開催に切り替えられました。なかでもwebミーティングが日常となることに伴い、院内のICT化は加速度的に進み、専用の部屋と機材が整備されました。当院附属の看護学校においても早い時期にweb授業の環境を整備し、2020年5月からweb授業が開始されました。これらは新型コロナウイルス感染症の流行がなくてもいずれ進化していたことですが、急加速し変化しました。学会や研修会のweb開催は、出張せずに院内や自宅で受けられ、仕事と家庭を両立したい私にとっては好都合でもあります。制限された環境の中でもブラッシュアップできる機会は大切にたく、積極的に研修会に参加しています。

新型コロナウイルス感染流行で環境や業務の変化がありましたが、日常業務を遂行する上で変化はつきものです。変化に対して過剰に反応せず、直面した状況を正しく理解し、適応しようとする姿勢で業務にあたるよう心がけています。変化に適応し進化していくのだと思います。今後も続く「うつらない・うつさない」ための張り詰めた生活でも、医療機関に勤務する自覚を持ち、鋭意邁進してまいります。8月に開催される全国大会（web）でみなさまにお会いできますことを楽しみにしております。



第12回全国大会のご案内

浜松医科大学医学部附属病院 医療福祉支援センター 小林利彦

皆さま、こんにちは。浜松医科大学医学部附属病院の小林利彦です。

この度、日本医療秘書実務学会第12回全国大会の大会運営委員長を仰せつかりました。本学会は、全国で唯一「医療秘書学科」がある4年制大学の川崎医療福祉大学を事務局とする学術研鑽の場として位置づけられています。私自身も、大学病院の中で医療クラーク等と関わることになった2013年度（第4回全国大会）から本学会に参画させていただきました。当時は、まさか自分自身が本学会で大会運営委員長を担うなどとは夢にも思っていませんでしたが、医師の働き方改革などが社会問題となってきたこともあり、勤務医の立場で本領域への関与ならび支援を行うことが自らの使命かと考えるようになりました。



さて、本来であれば、2021年8月29日に開催する当学会は私の所属先（居住地）でもある静岡県浜松市にて開設し皆さま方をお出迎えすべきところですが、昨年度と同様に新型コロナウイルス感染症の終息が見えない状況下、今年度も完全ウェブ（オンライン）での開催とさせていただきます。内容等の詳細につきましては下記の学会案内サイトも参照いただければと思いますが、今回の大会テーマは「次世代の医療秘書・医師事務作業補助者に期待すること」としています。その趣意のもと、教育講演としては、若草第一病院スポーツ整形外科部長（医療情報担当部長）の今田光一先生に「医療秘書として知っておきたい電子カルテの知識（仮題）」についてお話しいただきます。また、シンポジウムとして「次世代の医療秘書・医師事務作業補助者に期待すること～入職前教育と入職後教育のあり方～（仮題）」を企画しており、教育分野で現在ご活躍中の4人の演者を交えた活発な議論の場としていきます。なお、一般演題につきましても、例年通り、さまざまな分野・領域からの発表申込を期待しています。大会テーマには捉われず、全国各地で熱心な活動や研究を行っている方々からの積極的な演題申込をお願いします。

そして、何よりも、本領域に関心のある全国の教育関係者、医療秘書・医師事務作業補助者等の実務者、医療関係者からの学会参加を希望しています。学会当日に皆さま方と直接お会いできないことは大変残念ですが、オンライン開催であるが故に、遠方地からの学会参加が容易になるというメリットもあるように感じています。現在、当日の大会運営がスムーズに行われるように、私と運営委員会メンバー、事務局との間で議論等を続けています。あまり堅苦しくない学会にしていけるように鋭意努めていますので、皆さま方もお気軽にご参加いただければと思います。

日本医療秘書実務学会 第12回全国大会 2021年8月29日（日）



オンライン開催

9:00- 総会（会員のみ）

10:00-10:40 基調講演（教育講演）

「医療秘書として知っておきたい電子カルテの知識（仮題）」

（講師）若草第一病院 スポーツ整形外科部長 兼 医療情報担当部長 今田 光一 先生

10:50- 学会賞授賞式

11:00-12:00 研究発表（一般演題）

12:00- 昼休憩

13:00-14:30 研究発表（一般演題）

14:40-16:10 シンポジウム

「次世代の医療秘書・医師事務作業補助者に期待すること～入職前教育と入職後教育のあり方～（仮題）」

16:20- フリートーク

17:00 閉会



大会特設サイト URL

<https://sites.google.com/view/jsams2021/>

QRコード



全国大会に参加された医療機関のご紹介

医療法人社団洛和会 洛和会音羽リハビリテーション病院

ドクターエイド課 大木啓太郎

回復期・慢性期医療での医師事務作業補助者として

京都駅の隣の駅である山科。その地に救急医療と急性期医療を行う『洛和会音羽病院』、透析専門病院である『洛和会音羽記念病院』、そして回復期医療と慢性期医療を中心に行う我が『洛和会音羽リハビリテーション病院』があり、それぞれの病院の機能を生かし、連携して医療を行っています。

当院は100床の回復期リハビリテーション病棟、地域包括病床、障害者病棟、医療療養病床と回復期・慢性期に特化した病床を持っており、総勢106名の理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が患者一人当たり一日平均約8.5単位（1単位は20分）と高い密度でリハビリテーションに当たっています。昨今は訪問診療や訪問リハビリテーションのニーズも高く、自宅復帰後もしっかりと診療やリハビリテーションを受けられるような対応も行っています。

また、パーキンソン病を初めとする神経難病に対して短期集中的に行うリハビリテーション入院や認知症サポート医が行うメモリークリニック（物忘れ外来）、漢方専門医による漢方外来、そして全国でも珍しいほど多数のスタッフが在籍して行っている音楽療法など、急性期医療とは少々異なった回復期・慢性期に特化した医療を行っています。

私の在籍する医師事務作業補助者の部署であるドクターエイド課は2015年の病院設立と共に誕生しました。当時は急性期病院しか医師事務作業補助体制加算が認められていなかったため、当院のようなケアミックス型でない回復期や慢性期の病院に医師事務作業補助者が配置されるのは珍しいことであったと思います。そのため、診断書等の書類作成や代行入力といった医師事務作業補助者として基本的な業務をしながらも、いかに回復期や慢性期の病院の医師事務作業補助者として業務を行っていくかに苦心してきました。

そんな中で気づいたのが急性期医療とは異なる、慢性期医療における患者さんとの関わりです。

回復期や慢性期医療は介護分野を含めての幅広いチーム医療が必要なことにありました。それは、ただ病気や怪我を治療して退院させるのではなく、退院した後の生活を見すえて多職種で関わっていくというもの。もちろん中心となるのは医師ではありますが、医師ができること、把握していることにも限界があります。そこに、回復期・慢性期の医師事務作業補助者の存在意義があると考えます。例えば回復期や慢性期では介護主治医意見書や身体障害者診断書など医師にも記載に悩む書類がよく出てきます。また、職種間の連携で上手くいかなくて困ることもあります。そんな折にフォロー役として医師事務作業補助者の存在が効果を発揮します。

現在当課では、医師事務作業補助者に関する資格以外にも介護事務管理士や診療報酬請求事務能力認定試験合格者、診療情報管理士、医療経営士など他の分野の資格を持つ者も増えてきました。それは医師の苦手な領域を助け、医師と共に回復期・慢性期医療を進めていくのに必要となった結果なのだと思います。

患者層の高齢化と慢性化が進む中、回復期・慢性期医療に携わる医師事務作業補助者の一つの形としてこれからも歩み続けます。



医療法人社団洛和会 洛和会音羽リハビリテーション病院

京都市山科区小山北溝町 32-1

<http://www.rakuwa.or.jp/otowareha/>

会員のご紹介

福岡医健・スポーツ専門学校 医療事務ビジネス科／薬業科 早田 真樹

福岡医健・スポーツ専門学校の医療秘書教育は2002年より開始され、現在は、診療情報管理士、医師事務作業補助者、医薬品登録販売者など、医療ビジネスを取り巻く環境にあわせた専門教育を行っています。

数多くの医療事務系資格の取得をはじめ、病院窓口そのまゝの実習設備により、病院窓口業務の実務・実践力の向上のためのシミュレーション教育に注力してきました。

本校の教育の特色のひとつに、産学連携教育があり、近隣病院の「ホームページ制作プロジェクト」や、小児科・こども病院用パンフレット「こどもの事故を防ぐ、ヒヤリハット集」の制作、外国人患者向け「指差しコミュニケーションボード」の制作、「24時間テレビ募金活動」、「地域ラジオ番組配信プロジェクト」など、病院や企業との共同プロジェクトを通じてマネジメントスキルやビジネススキルを身につけています。

今後はさらに、医療機関のICT・IoTの導入による、医療秘書業務の変化に対応できる人材や、高度な医学知識、薬学知識を兼ね備えたスペシャリストなど、就職先の医療機関から高い信頼を得られる人材教育の発展に尽力を重ねて参ります。



▼▲▼▲▼▲▼▲ 学会員を募集しています ▼▲▼▲▼▲▼▲

本学会では、医療秘書、あるいは広く医療事務に関心を持つ医療機関の実務者の方々、教育者・研究者の方々のご参加をお待ちいたしております。

実務者の方々

- ★ 医療機関で、医療秘書、医師事務作業補助者、あるいは医療事務に従事している方、関心のある方
- ★ 医療機関で、医療秘書、医師事務作業補助者、あるいは医療事務の教育、指導をしている方
- ★ 今後、医療秘書を目指そうとしている方
- ★ 医療秘書、医師事務作業補助者、あるいは医療事務の能力開発に関する情報を求めている方
- ★ ホスピタリティや接遇対応マナーの能力の向上に関する情報を求めている方

教育・研究者の方々

- ★ 大学・短期大学・専修学校などにおいて医療秘書、医師事務作業補助者、あるいは医療事務の教育・指導に携わっている方
- ★ 医療秘書、医師事務作業補助者、あるいは医療事務の能力開発、指導方法、ホスピタリティや接遇対応マナーなどに関する教育・研究に関心のある方
- ★ 医療秘書、医師事務作業補助者、あるいは医療事務に関する情報を求めている方

会員特典

- 本会が主催する全国大会などで研究や、実践の成果を発表できます。
- 本会が主催するワークショップや研修会に参加できます。
- 医療機関の方や、教育関係者、研究者の方との交流ができます。
- 機関誌『医療秘書実務論集』に論文や報告などを投稿できます。
- 『医療秘書実務論集』を無料送付します。
- 学会員の方は、メディカルオンライン上の学会誌を無料で閲覧できます。
- 『会報』を無料送付します。

会費

- (1) 正会員 6,000円
- (2) 学生会員 3,000円
- (3) 賛助会員 (団体) 一口 10,000円
- (4) 法人会員 一口 20,000円

学会を通して
私たちと一緒に
学びませんか



事務局からお知らせ

◆ 年会費納入のお願い

2020（令和2）年度、また今年度以前からの年会費納入をお忘れになっていませんか。

学会関連のお知らせ等の発行や送付は、学会員の皆様が納めていただく年会費によりささえられておりますので、未納の方はすみやかに下記口座宛に振込みをお願いいたします。

また、年会費を2年間未納の方は、会則第8条2により自然退会となります。なお、自然退会となっても、退会までの年会費のご入金をお願いいたしますので、ご注意ください。

【年会費振込み先口座】

中国銀行 川崎学園出張所

口座番号 1294871

日本医療秘書実務学会（ニホンイリョウヒシヨジツムガッカイ）

QRコードから
各種書式をダウンロード
することができます。

◆ 学会への届出について

ご都合により退会をご希望の方は、退会手続きをお願いいたします。日本医療秘書実務学会のホームページ上部「入会手続き」内に「退会届」の書式がございますので、記入・捺印のうえスキャンしたデータを事務局宛にメールでお送りください。



編集後記

日本医療秘書実務学会『会報』第11号2報をお届けいたします。第2報から会報をデジタル化し、会員の皆さまにはメール送信とホームページのパスワード付公開を始めました。

年度末に加え、新型コロナウイルスによる対応で慌ただしい中、原稿ご執筆にご協力くださいました皆様に心より感謝申し上げます。

会報へのご意見、ご感想等がございましたら、学会事務局へお知らせいただければ幸いです。

広報委員長 西山良子（関西女子短期大学）

広報委員 土井有美子（中国中央病院）

仁宮 崇（中国短期大学）

早田真樹（福岡医健・スポーツ専門学校）

日本医療秘書実務学会『会報』第11号2報／2021年4月30日発行

〒701-0193 岡山県倉敷市松島288

川崎医療福祉大学医療秘書学科内

<https://jsams/wp/>

E-mail: office@jsams.jp